

56期殉忠10名のメダル

陸士56會員家族 脇坂 英文

私の父は陸軍士官学校56期卒業、戦後電力会社に就職の後、定年を経て昭和60年病気のため逝去いたしました。父の遺品の中には、士官学校56期生の名簿、関連資料などがありますが、最近改めて気が付いたものに、左記写真にありますような、直径4・5センチメートルの金属メダルがあります。この件で、投稿するものです。

このメダルには、円形の前面に「殉忠」の文字と縦に十二三の数字、裏面に陸士「五十六」期の10名の方々（藤本健市、河内裕、脇坂宗一郎、上野敏明、増島敬、中村俊一、牛島貞二、菊池清明、小田口伸、横戸允の各氏）のお名前が刻まれております。いずれの方々も本科7及び8中隊の出身です。

このメダルは、昭和17年12月17日、本科士官学校卒業時に「殉忠」の合言葉の下、お国のために命を捧げる覚悟を示す証しとして造ったものと推察する次第です。なお、メダル前面の十二三の縦の数字は、11月23日を意味し、卒業を1カ月後に控えたこの日に10名が「殉忠」を誓ったのではないかと考

考えられます。

いずれにしましても、10名を含む千余名の56期生の結束と国に対する強い忠誠心と軍人魂を示すものであります。改めてこれらの方々に敬意と崇拝の気持ちを示し、また、われわれ子孫にとつて誇りとするものです。

56期資料「礎」等によりますと、10名の方々は、内5名が、中支方面、あるいは南方アール諸島、ジャワ島、バングラ海などにおける戦闘で、壮烈な戦死をされております。

できましたら、偕行社の雑誌を通じてこのメダルのことを遺族はじめ、同期等関係する方々にも知っていただけたらと憎越ながら記事に認めた次第です。



(前面)



(裏面)